

## 西富岡・向畑遺跡名

(伊勢原市No.160 遺跡)

調査期間 20070403～継続中

所在地 伊勢原市西富岡

時代

旧石器  
縄文  
奈良・平安  
中・近世



作成日:20080912

### 概要

西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社による第二東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007年4月から発掘調査を実施しています。遺跡は、富岡丘陵の西側から南側にかけて南北約2kmわたって広がる遺物散布地として知られています。現在行っている発掘調査は、遺跡の中でも緩やかに傾斜した丘陵の西斜面を対象として行っており、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物が見つかっています。

中世の遺構は、多数のピットが見つかっており、2～3軒の

ほったてばしら

掘立柱建物跡があったようです。古墳時代から奈良・平安時代の遺構は、70軒の竪穴式住居と32軒の掘立柱建物跡が見つかっています。平成19年度調査したH19号

かたいたなく  
竪穴住居からは、銅製の鍔帯金具が10点まとまった状態で出土しました。鍔帯金具のうち、飾り金具である

じゅんぼう

まるとも

巡方が4点、丸鞆が6点出土しました。県内ではまとまって出土した例は少なく、最も多い場合でも4点でした。また、H3号竪穴住居跡からは、金銅製の飾り金具が出土しました。薄い板状の金具が8枚重なった状態で出土しています。現在のところ、何に使われていたものか調査中です。縄



▲帯状粘土列



▲J3敷石住居完掘状況

うめがめ

文時代の遺構は、<sup>うめがめ</sup> 堅穴式住居跡・埋 甕 ・土坑・集石・配石・带状粘土列が見つっています。主に縄文時代後期の遺構が中心です。6軒の堅穴式住居跡が見つっているうち、5軒が敷石住居になります。带状粘土列は、縄文時代後期の層から検出されました。石を使った列石や配石のような遺構と異なり、粘土を使った同様の遺構は県内では初の検出例となります。